



令和8年度 喜々津小学校だより 第3号

な み 喜々津
かよく みんなで

令和8年 6月10日(水)

諫早市立
喜々津小学校

校長 前野 泰介



最悪を想像し、最良を目指す

「な み 喜々津」の保護者、地域の皆さん。運動会への御協力、ありがとうございました。連休明けからの長雨、その後の急激な気温の上昇。想定外の気候の変動に悩まされましたが、皆様の知恵と力をお借りすることで何とか無事に終わることができたと思っています。

長崎新聞によると「県内5月の熱中症救急搬送者は、過去最高の62人」とのことです。本校運動会では、児童3名が救護係のテントを訪れましたが、少し体を休めて競技に戻ることができています。多くの目で見守っていただいた成果です。本当にありがとうございました。リスクマネジメントの事例として、東北大震災の大川小の訴訟問題に触れることがあります。学校と家庭と地域が傷口に塩を塗り合うような事態は避けたいものです。

だからこそ、最悪を想像し、最良を目指す。その「最良」こそが、学校と家庭と地域がな かよく みんなで力を合わせて喜々津の子どもを守り育てていくことだと考えます。今後ともよろしくお願いします。



さて、来週より「喜々津っ子の心を見つめる教育週間」が始まります。※5月22日文書発行

今年度は、15日(月)の校長講話を皮切りに、学校公開、授業参観、県市教委による学校訪問、学校支援会議と、目白押しです。本校の教育理念の土台には「人は大切にされると、人を大切にしたいくなる」の言葉を置いています。この期間に、様々な価値や人と触れ合い、喜々津っ子の心を豊かにするきっかけづくりを行います。でも、これは、学校だけが取り組んでも効果はありません。「家に帰ったら、家族が地域や学校の文句を言っていた…」となると、台無しです。繰り返しますが、学校の役割はきっかけづくりです。家庭や地域の方々からの、いつも以上の温かいかわりが子どもの背中を後押しします。

先日、本校の6年生の善行について、地域の方より電話をいただきました。「のぞみフェスタ」を訪れていた彼らが幼い子どもに優しく接してくれたという感謝の内容でした。校長室で話を聞くと、笑顔で嬉しそうに詳細を話してくれました。



校長室にて

温かさは一瞬で人の心を豊かにしてくれます。このような出来事がたくさん起きることを期待します。

また、ルールやマナーの徹底も意識します。例えば、SNS利用についてです。個人名を出して攻撃することは、「名誉棄損」「侮辱罪」を問われることがあります。刑事責任や高額な賠償金を支払う例もあるようです。小学生の4割以上がスマホを所持する時代です(R5 総務省)。子どもだから許されるということはありません。持たせる以上は、親が責任をもつ。この機会に子どもが扱うスマホをご確認ください。そして、ご指導をお願いします。

最後に、悩みをもつ子どもや保護者の方への力強いサポーターの紹介です。

彼女らは、困り感をもつお子さんのことであれば、何でも気軽に相談に来られることを心待ちにしています。まずは、学校へお電話ください。

心のケア相談員 酒井さん(水・金 10:30~14:30)
スクール・カウンセラー 篠原さん(木(隔週)8:00~12:00)
SSR指導員 榎田さん(火~金 9:00~13:00)

この一週間が、子どもの心が豊かになるきっかけになるよう、過ごしていきます。